

2019 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

放射線技術科学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:放射線技術科学科長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2019 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      コロナで臨床能力試験ができなかった</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、可否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(可否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      各授業で国試問題の解説などを行った</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      シラバスに適切な評価方法が記載されている</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。 GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 確認試験は行われている</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ガイダンスや面談で指導している</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。 本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。 全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 下位学年の講義の中に国試を意識させる</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生の意識調査を行う</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 FD の授業評価を参考に改善している</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 臨床実習先で本学教育に対する評価を活用している</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 IR と連携を行っている</p>

2019 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

医療栄養学科・管理栄養学専攻	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:医療栄養学科長、管理栄養学専攻長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2019 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      プレゼンテーションを観察し、評価する授業、演習の導入を進め、適切な評価の取り組みも進んでいる。OSCE の導入の検討も進行させた。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、可否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(可否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      4年次の総合演習で模擬試験を複数回実施しており、多くの開講科目で小テストや学修内容の振り返りのための課題提出、実習ごとのチェックをこなし、学修成果の形成的評価に活用している。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したかを把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 調理学、給食経営学、臨床栄養学等の科目で実務に模した形式の課題を課し、学生のアウトカムの確認を行っている。</p> <p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。 GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3 年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 2 年生までの GPA に応じた個別指導を行い、保護者面談も交えて学生の学習および生活面の指導を行なった。3 年生のアチーブメント試験も実施した。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 各授業にグループワークなどアクティブラーニングを組み入れているほか、成績不振学生には個別指導も行って、自ら考える努力を促した。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 4 年生は全員国家試験に臨ませ、国家試験合格率はほぼ全国平均であった。ただし、100%合格は達成できず、指導面での一層の改善を目指す必要がある。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 1 年生の他学科との合同授業や演習を通じて、また学生意識調査データに基づき、本学の教育理念の達成を常に目指している。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 教員は全員 FD に参加し、教育改善に努めている。授業評価も実施し、問題点を見出して改善の努力を継続している。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 外部実習先からの学生教育に関する評価意見や、卒業生訪問を通じた学生の自覚の涵養を促す等の活動を行っている。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> IRから情報提供はいただいているが、科学的根拠に基づく教育課程改善という段階には至っていない。</p>
--	---

2019 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

医療栄養学科・臨床検査学専攻	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:医療栄養学科長・臨床検査学専攻長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2019 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>演習科目でのプレゼンテーションの評価や実習科目における実技試験や実習への取り組み態度の評価は、実際ほとんどの対象授業で行っている。今期は12月19日に挨拶、手洗いと心電図についてOSCEを実施した。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>4年次の総合演習ⅠおよびⅡでは模擬試験を数回組み入れ、また、(臨床)微生物学などの多くの講義で、復習小テストを行い、学習成果をモニタリングしている。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最</p>

	<p>最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>臨床微生物学実習など一部の授業では、最後の課題として、「臨床検体をイメージされた未知検体の同定」を行わせることにより、目標達成度を各自確認させている。</p> <p>④各科目の可否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。</p> <p>GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>GPA2.0 未満の学生は国家試験に殆ど合格しない事実を基に、2年次には<u>学生要覧に従って</u>、その他の学年では適時三者面談を実施し、学生・保護者・教員が三位一体となって、学習・生活指導を行っている。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>再試験科目多い学生に対しては、担任が中心となり面談を行い学修行動の振り返りを含めて指導している。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。</p> <p>本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>2019 年度の現役受験者の合格率の全国平均が 83.1%と昨年より 3.4%低下した中で、本専攻の合格率は、昨年度の 75.6%から 96.2%と大きく改善した。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>12月19日に挨拶、手洗いと心電図について OSCE を行った。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 全教員が毎回FDに参加し、授業改善に努めている。また、学生の授業評価を基に自己評価を行った。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 臨床実習先の技師長等をお呼びしての臨床実習前説明会や臨床実習報告会における技師長等の意見を尊重し<u>←参考に</u>、臨床実習前事前指導の改善を行っている。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 定期試験、模擬試験、国家試験の各問題の正答率を求め、それを基に、各担当科目に関して、本専攻の弱点を見出し、補強を行なった。</p>
--	---



2019 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

リハビリテーション学科・理学療法学専攻／理学療学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:リハビリテーション学科長・理学療法学専攻長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2019 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>技能・態度の評価に関し、学外実習に特に必要となる技能はOSCEを導入し、評価方法の改善に努めている。さらに他の実習科目においてルーブリックを作成し、評価方法の検討を行っている。学習ポートフォリオは一部の科目で活用中である。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>国家試験のための模擬試験は全学年において実施した。各授業において小テストの実施にも取り組んでいる。繰り返し回数、振り返りも前年度より増やし国家試験全員合格を達成した。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるよ</p>

	<p>うにします。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> <b>ほぼ達成(実行中・80%)</b> <input type="checkbox"/> <b>遅れ有(50%)</b> <input type="checkbox"/> <b>大幅な遅れ有(30%未満)</b>  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                  2～4年次の学外実習前に実習に必要な到達レベルの確認、実習後指導により自身の達成度の把握を行わせている。</p> <p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。                  GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> <b>ほぼ達成(実行中・80%)</b> <input type="checkbox"/> <b>遅れ有(50%)</b> <input type="checkbox"/> <b>大幅な遅れ有(30%未満)</b>  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                  臨床実習配置の際、GPA の値を活用している。また、GPA の値や変動を確認し、成績不振や低下した学生に対して面談を実施し修学指導を実施している。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。  <input type="checkbox"/> <b>達成(100%)</b> <input checked="" type="checkbox"/> <b>ほぼ達成(実行中・80%)</b> <input type="checkbox"/> <b>遅れ有(50%)</b> <input type="checkbox"/> <b>大幅な遅れ有(30%未満)</b>  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                  学習態度や成績が良くない学生に対し学外実習前後、学期末などに面談を行い、自身の課題と対策について考えさせる機会を設けている。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。                  本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。                  全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> <b>ほぼ達成(実行中・80%)</b> <input type="checkbox"/> <b>遅れ有(50%)</b> <input type="checkbox"/> <b>大幅な遅れ有(30%未満)</b>  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                  前年度に引き続き、国家試験全員合格を達成した。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。  <input type="checkbox"/> <b>達成(100%)</b> <input checked="" type="checkbox"/> <b>ほぼ達成(実行中・80%)</b> <input type="checkbox"/> <b>遅れ有(50%)</b> <input type="checkbox"/> <b>大幅な遅れ有(30%未満)</b>  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                  技能や態度への教育効果については特に臨床実習科目において日本理学療法士協会の標準的な評価尺度を参考に手引き書を作成、活用している。指定規則改定に伴い、診療参加型実習での学生評価基準を現在策定中。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。  <b>■達成(100%)</b> <input type="checkbox"/> <b>ほぼ達成(実行中・80%)</b> <input type="checkbox"/> <b>遅れ有(50%)</b> <input type="checkbox"/> <b>大幅な遅れ有(30%未満)</b>  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                  定期的に学生の授業評価を実施し、教育改善に活用している。</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>本学科では臨床実習施設と就職先の多くが重複しており、年4回の臨床実習の際と、年1回の臨床実習指導者会議において意見を聴取する機会を設けている。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>教育課程改善の参考に IR のデータを活用している。</p>
--	--

2019 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

リハビリテーション学科・作業療法学専攻	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:リハビリテーション学科長・作業療法学専攻長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2019 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      グループに分かれてプレゼンテーションを行い、評価尺度を持って評価している。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、可否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(可否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      小テストは授業中に行い、国家試験においては定期テストの3割をそれに当てている。また、特別講義をグループに分けて行い、国家試験の模試を行っている。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          学生にアウトカムとして学年末に業者の国家試験に関する3科目の模試を行い、どれだけ把握できたかを確認できるような工夫をしている。</p> <p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。          GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          GPA 評価を活用し、成績を基準としたグループ分けを行い働きかけている。実習地の選別にも総合的に判断する材料としたい。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          個別面談・ホームルームを定期的に行い、学生自らの学習意欲につなげるように指導している。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。          本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          カリキュラムにおいて社会に役に立つような専門知識を身につけられるように配置している。現在はその基礎的な段階を踏んでいる。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          ホームルームにてアンケート調査を行い、学習行動に対する意識調査を行っている。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          個別面談において自己評価の機会を持ち、学生の学習意欲や方法を改善するように働きかけている。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          卒業生がいないので評価は不可能である。</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>学年ごとのデータは SAMSPO およびサーバーを利用して教員が共有し、教育に利用している。</p>
--	--

2019 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

医療福祉学科・医療福祉学専攻	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:医療福祉学科長、医療福祉学専攻長、 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2019 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック 注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。</p> <p>また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>講義科目においては、ソーシャルワークにおける価値・知識・技術を問う専門試験において、客観的に学習成果を測定しその結果を評価することができた。また、社会福祉士に関する演習科目・実習科目および精神保健福祉士に関する演習科目・実習科目における評価についても適切な評価基準に照らして、各教員が学生の評価を行った。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、可否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(可否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>講義科目・演習科目ともに、講義の各回におけるミニテストや中間テストの実施によって、学修成果の到達度を把握した上で、学生の習熟度を把握し、学修成果の充実を図る取り組みを行った。その結果、本専攻内においては概ね到達水準に達したものと評価を下した。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握で</p>

	<p>きるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置（マイルストーン）を把握できるようにします。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>3年次生は相談援助実習や精神保健福祉援助実習をとおして、4年生次は医療ソーシャルワーク実習をとおして、ソーシャルワーカーとして目指すべき専門職の姿を理解するとともに、現時点における自らの状況（自分の立ち位置）を的確に確認することができたものと判断する。さらに、3、4年次生は前後期の国家試験対策において、全国統一模擬試験、学内模擬試験等の結果により、国家試験の合格ラインと学生自身の学力とを実感することができた。</p> <p>④各科目の合否の判定（単位認定）に加えてGPA注3による評価を活用します。</p> <p>GPAは学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものが、進級、卒業（学位授与）、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>相談援助実習に関しては、2年後期の相談援助実習指導Ⅰから3年前期の相談援助実習指導Ⅱに推移する時点で習熟度テストを実施し、学外実習の可否について決定することとしている。なお、3年後期の精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、医療ソーシャルワーク実習指導についても相談援助実習と同様に実力試験を実施し、学外実習の可否を判断するものとしている。なお、実習の可否イコールGPAとの評価は、本人の隠れた能力や資質を見落としてしまう危険性を孕むことにもなりかねないため、実習の可否はGPAのみで判定することを極力避け、あくまで参考事項として評価を行うものとしている。そのためにも随時口頭試問を行うことによって専門職としての資質の確認を行っている。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動（PDCA活動注4）を促します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>実習指導や演習授業においては、とくに事前学習や事後学習の一つとしてレポート課題を出すとともに、頻回のグループワークを用いたプレゼンテーション授業を行うことをとおして主体的・積極的な学習への取り組みが行えるようになったと理解している。さらに、卒業研究においては、ゼミ担当教員から指導を受けることによって、学生自ら積極的に論文テーマの研究に取り組むとともに、計画的な論文作成を行うことができた。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合やGPAの他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。</p> <p>本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻におけ</p>



	<p>る「入学者数（入学時資格取得希望者数）あたりの合格者数」を重視します。全国と同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>2019年度に卒業した学生は、入学者17名のうち、社会福祉士国家試験受験者17名、同合格者11名（入学者比64.7%、受験者人数比64.7%）、精神保健福祉士国家試験受験者3名、同合格者3名（入学人数比17.6%、受験者人数比100%）と好成績であった。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度（ルーブリックなど）を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>国家試験受験までに、模擬試験を頻回実施し、その後習熟度・合格可能性に関する分析を専攻内で独自に行っている。その結果、おおよそその合格可能性の評価は下すことができ、2019年度に関してもおおよそ専攻内で予測したとおりの結果となった。①で記載したように、入学者17名のうち、社会福祉士国家試験受験者17名、同合格者11名（入学者比64.7%、受験者人数比64.7%）、精神保健福祉士国家試験受験者3名、同合格者3名（入学人数比17.6%、受験者人数比100%）であった。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善（FD注5活動）を不断に継続していきます。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>全教員が、学生の授業評価に対して真摯に検討を行い、次年度のシラバスに改善点を工夫した上で、講義の再構成を心がけている。教員の自己評価は教員毎に個別に行われ、その成果が授業や教育内容の改善に生かされているが、その内容を学科内で情報共有するという課題は残されている。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>卒業生が本学教員を訪ねて来る機会は多く、また県内社会福祉・医療機関の職員が情報交換や就職の応募案内のため本学に来ることも多い。そこで得られた情報は学科会議・専攻会議等において教員間で情報共有が行われ、教育課程や内容の改善に適切に生かされている。しかし、在学生のインターンシップへの積極的な参加を促す課題は残っている。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより（IR注6）、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>大学IR推進委員会の本学科にかかる報告会を実施し、その内容を教員間で情報共有を行った。その結果は教育課程や教育内容の改善に生かされている。</p>
--	--

2019 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

医療福祉学科・臨床心理学専攻	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:医療福祉学科長、臨床心理学専攻長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2019 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p style="text-align: center;"><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>実技・実習に関する独自の評価基準を作成し、学生にも提示して評価している。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p style="text-align: center;"><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>定期試験以外に小テストやショートレポートなどの課題を出し、その結果も併せて習得度を評価している。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>全教科において「到達目標」を明確に提示した上で評価基準を提示することによって、学生自身がどの程度到達できたか理解できるようにしている。</p> <p>④各科目の可否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。 GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>GPA は学生の授業の理解の程度について教員が把握し、学生指導(教育支援、進路指導)に役立てている。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>多くの授業でPDCA活動を導入している。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。 本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。 全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>全教員に専攻の方針とそれに即した評価基準について周知している。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>方針に基づいた独自の評価基準については検討中である。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>全教員が、学生の各期ごとの授業評価の確認し、授業の改善に役立てている。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学生の就職先の評価を教員全員が理解し、教育改善に役立てている。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 大学全体で行なった分析については、専攻の教員全員が確認し、教育の改善に役立てている。</p>
--	--

2019 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

鍼灸サイエンス学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:鍼灸サイエンス学科長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2019 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>知識や思考力の評価方法は試験、技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度を用いる評価方法を活用しています。評価尺度については、事前に説明し、その学習方法について個別に面談しています。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>形成的評価については、国家試験および最終的総括評価(合否の判定)の2つを重点的に強化しています。国家試験は、学生の習熟度に合わせた実力テスト、模擬テストを提供し、底上げを目的として提供しています。総合評価は、必要な水準に達成できるまで、繰り返し実施しています。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階におい</p>

	<p>て、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          全科目について、面談にて個別に把握するように指導している。評価方法としては、演習・実技科目については詳細な把握ができるよう調整されているが、講義科目では、一部徹底されていない部分もある。</p> <p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。          GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          GPA を進級・卒業・国家試験合格の目安として指導に活用している。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          個別面談の中で活用し、学生の自己改善に結びつけている。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          受験者合格率は100%であったが、入学者数あたりの合格率は68%と目標には達しなかった。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          教育効果を高めるために、学科評価と全学的調査を含めて、評価指導している。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          学生の授業評価に基づき、担当教員の教育改善を継続している。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>教育課程の改善に生かします。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> 客観的評価はないが、口答による主観的評価や意見を聴取して、教育課程の向上に生かしている。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> IR での分析結果に基づき、国家試験対策や教育課程の改善に取り組んでいる。</p>
--	--

2019 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

臨床工学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:臨床工学科長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2019 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>従来より講義において知識・思考を確認するために、試験やレポート、プレゼンテーション等を活用し、実習科目では技能や態度についての適切な評価を行っている。一部実習科目でルーブリックを取り入れているが、ポートフォリオの活用と共に十分ではない。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、可否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(可否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>小テスト、国家試験・資格試験の為の模擬試験、中間および定期試験を組み合わせで行っている。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p>



	<p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          明確な目標として国家試験や資格試験がある。その達成に至るマイルストーンとして模擬試験や補講での試験、その他小テスト、定期テストなどを位置付けている。</p> <p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。          GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          ガイダンス時にGPAが学修指導に広く活用されることを周知した。また、4年生のクラス編成及び就職活動に活用した。3年前期学内実習での確認試験は一部実習で行われている。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          学生の振り返りによる主体的自己改善や学習改善やリフレクションシート、面談時の指導アドバイス等を適宜行っているが、学生の PDCA は行っていない。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。          本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          国家試験合格は新卒で全国 90.7%に対し本学では 95%,新卒+既卒で全国 82.1%に対し本学 93%と上回る結果となった。入学者あたりの合格率は入学時 48 名に対し、卒業生数 36 名で 75%となった。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          実習等により、一部ルーブリックによる技能や態度評価が行われているが、全学的な学習行動調査や意識調査については把握できていない。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          学生による授業評価、教員の自己評価、PDCA、さらにFD活動等について継続的に行われている。</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> 臨床実習による評価等について得られているが、卒業学生の就職先機関への本学の教育評価については準備中である。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> IR にGPAに基づくデータ、国家試験合格状況や模擬試験結果を提供し、情報の蓄積と分析が進みつつある。</p>
--	---

2019 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

医用情報工学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:医用情報工学科長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2019 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学位授与方針並びに授業形態に適した評価方法を採用した。</li> <li>・但し、学修ポートフォリオを活用した評価方法の改善については手を付けていない。</li> </ul> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>評価については、授業内容に応じて形成的評価と総括的評価を組み合わせを行った。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input checked="" type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          医用情報工学科は適切な評価方法が見いだせない状態にある。</p> <p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。          GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          成績の判定では、GPA を念頭に判定してはいないが、結果論として反映された形となっています。医用情報工学科の学生には、沢山の異なる進路があり特定の科目の成績だけで評価することは困難なので、常に総合的な判断となります。ただ、優秀な学生は何事にも積極的であり、積極的ならば成績が良く、結果として GPA も高くなります。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          2年生医療情報セミナーⅡは、この目的の為に設けられたようなところがある科目です。2019年度も学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつけることを目的としたことを行いました。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。          本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          受験者数と合格率を一つの判断基準として用いています。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input checked="" type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          学修評価に意識調査の結果などを反映することはしていません。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          全学での取り組みに従い、FD 活動を行いました。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>卒業生に授業をして貰うことは行ったが、本学の教育に対する評価を相談するには至っていない。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 これは、大学全体で取り組んでいる内容である。</p>
--	--

2019 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

薬学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:薬学科長 村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局:教務課	
2019 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>① 学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。                      知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック 注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      各領域・各学年において、ルーブリック評価を始め、評価方法の改善に取り組んでおり、その成果も徐々に見られ始めています。ただし、学生がポートフォリオを利用しながら、学修を進めていく状況は、事前実習から実務実習にかけてのポートフォリオに限定されている様子であり、継続課題です。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、可否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。                      「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(可否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      形成的評価および総括的評価を組み合わせ、できる限り学年留置が起こらないように指導が進められています。大きな関門は CBT と国家試験(卒業試験)ですが、この部分では期待される水準に達していない学生が多く見られ、特に CBT 不合格者は年々微増している状況は継続課題と考えております。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。                      全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏ん</p>

	<p>で着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>各達成評価についてはルーブリック評価を用い求められている水準を評価するようになっていきます。これについて、卒業生が各施設から“鈴鹿医療科学大学の学生”は非常によく仕事をやってもらっている、優秀である、との評価をいただいていることからその成果が出ていると考えています。</p> <p>④各科目の可否の判定(単位認定)に加えてGPA 注3による評価を活用します。</p> <p>GPAは学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものです。が、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>GPAは学生・保護者にその考え方周知されており、面談等でもGPAの結果を使用しながら、説明・指導を行っております。また、国家試験対策においても重要なアイテムとして使用して指導にあたっております。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA 活動 注4)を促します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>国家試験対策において、周期的に学生の生活の状況(1日の過ごし方)を確認し、これまでの学習の反省点、今後の過ごし方などの目標を立てて、それに基づいて担任の面談を実施してきました。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合やGPAの他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。</p> <p>本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>上記の内容について、国家試験・CBT 対策委員会では過去のデータを利用して、学生の学力等の解析を実施してきました。しかし、国家試験の合格率については、受検者数に対する合格率を優先する傾向で、「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視したとは言いがたい状況でした。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>薬学科として各科目の担当者に対してルーブリック評価などの評価尺</p>

	<p>度の作成・利用を促しており、卒業研究や実習関連では薬学部・各研究系において作成・利用が進められ、年度毎にブラッシュアップされています。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>各教員が学生による授業評価を受け、教員の自己評価を実施し、FD委員会を中心に授業や教育課程の改善に対する自己研鑽の場を設けてきました。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>交流会などで、卒業生との交流の場を設けており、また、講義・実習などでも卒業生や就職先機関の職員を講師として招聘して講義していただき、情報交換の場として利用しています。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>薬学部から全学 IR 委員会へ教員が積極的に参加し、その情報を国家試験・CBT 対策委員会にしっかりとフィードバックしていただいています。</p>
--	---



2019 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

看護学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者:教務・教育改革担当副学長 分担者:看護学科長 村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(教務課長) 事務局:教務課	
2019 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度(ルーブリック注1など)を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験(OSCE 注2)で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>各看護学実習科目における知識・技術・態度の総合的評価表を用いて、学生・教員双方向による評価を実施した。</p> <p>全看護学実習科目終了後に4年次必修科目「看護の統合Ⅰ(技術の統合演習)」において、これまでの学びを統合した看護技術試験を行い、最終到達度を評価したが、内容のさらなる充実が必要。「卒業課題」についてルーブリックを取り入れた評価表を用いて評価を行った。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>形成的評価として講義内に複数回の小テストやレポート課題を実施しながら授業を進め、総括的評価としての定期試験とともに、学生の段階的な学修成果を確認した。しかし、ごく一部の科目で、期待される水準に届かない学生がいるため、科目担当教員と教務委員会が連携し、評価内容をさらに充実させる。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるよ</p>

	<p>うにします。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          前期・後期終了時に、GPA2.0未満の学生を中心に学生担当教員が個別面談し、学生自身の到達度と具体案を確認した。          4年間の看護学実習科目において「看護技術の到達度」冊子を用いて、各科目での看護技術の経験の有無や卒業時の到達度を記載して確認したが、新カリキュラム導入に伴う、一部見直しが必要である。          全科目終了後に4年次必修科目「看護の統合Ⅱ（知識の統合）」において、これまでの学びを統合した専門基礎・専門科目に関する試験を行い、最終評価をした。</p> <p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えてGPA注3による評価を活用します。          GPAは学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの学修指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          学生の科目の履修状況とともにGPAを確認し、学生との個人面談や保護者を加えた3者面談時の学修指導に活用した。          学年終了時に、GPA2.0未満学生は、学生担当教員・学年担当教員・教務委員長など複数で学生と面談し学修指導を行った。          成績不振者への三者面談は必要者全員が行え、具体的な学習指導もフォーマットを作成し実施できている。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA活動注4)を促します。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          毎年度初めに学生は今年度の目標を立て、カリキュラムマップの成績別色分け表とともに、学生担当教員が個人面談できている。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合やGPAの他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。          本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。          全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>          ◆学内国家試験模擬試験と4年間の成績および国家試験合格との関連が見いだせていないため継続して実施する。          ◆入学者数あたりの看護師国家試験合格者数による合格率を90%以上にすることはできた。          ◆成績不振者・原級留置者への補講および教育指導を体系的に行っているが、継続的に実施する。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。</p>

	<p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>実習・演習科目における知識・技術・態度の総合的評価表を用いるとともに、在学生の意識調査については IR 推進室に分析を依頼して学部生の特徴を継続していく。また、実習の総合評価の意見交換を行い、評価の妥当性を高める。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD 注5活動)を不断に継続していきます。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>学生の授業評価や授業内のリアクションペーパーの内容から学生の学修状況や理解度を把握し、次回講義にフィードバックしている。講義方法や内容に関して次年度の改善点を明らかにし、シラバスに反映させている。</p> <p>研究推進・FD委員会が中心となってFD活動計画を立て、年2回の研究・教育力育成のための取り組みを実施したが、さらに内容を充実させる必要がある。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>第1期生卒業1年が経過した時点で本学の教育に関する調査を実施し、今後の教育の在り方に活用したが、回収率を高める工夫を行い、継続していく。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより(IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>学内国家試験模擬試験結果と4年間の成績および国家試験合格との関連についての分析および在学生意識調査の分析を行い、3年生後期からの各看護学実習指導とGPAを基にした適時の学修指導を行うことができた。</p> <p>2020年度新カリキュラム適用にあたり、現行カリキュラムからの速やかな移行を実施した。</p>
--	---